

## 母子保健における助産婦のあり方に関する研究 分担研究報告書

分担研究者 小野寺 伸 夫

総括：母子をとりまく環境の変化の中で母子保健に対するニーズも変わりつつあるが、少子化時代に対応した助産婦のあり方について体系的かつ包括的に検討するため、病院内助産婦の地域での貢献策およびすでに地域で活躍する助産婦の母子保健活動の実態を明らかにするとともに、ヒューマンリソースとしての助産婦を社会・保健・医療・福祉など総合的立場から検討した。

### ①病院内助産婦の地域への貢献策について

群馬県内の病院、診療所、小児医療センターの3か所の助産婦を対象とした地域の母子保健活動の実態調査、ならびに助産婦のキャリアパス、助産婦と病院・診療所・母子保健センター・助産所等の連携システム、および保健・福祉（心理）関係者からみた行動科学的アプローチなどの観点から検討した。（研究チームリーダー：植地正文）

### ②産科学・助産科学発展における助産婦の機能充実について

専門化された産科学・周産期科学・小児保健学・助産科学発展における助産婦の機能拡大について関係者の意識調査を行ったところ、異常妊娠例について助産婦が管理することは困難であるが、正常妊娠例についてはより積極的な助産婦の活躍が期待されていることがわかった。

（研究チームリーダー：北井啓勝）

### ③助産婦学校卒業生の就業状況の実態把握と生涯学習について（宮里和子 順天堂医療短期大学）

先行研究の検討から、各国の母子保健の現状と助産婦教育システムを調査・検討すること、および助産婦の自己学習をキャリアとして評価し人事処遇システムに反映させる方策が望まれること等が明らかになった。（研究チームリーダー：宮里和子）

### ④地域保健福祉推進のための助産婦活動と今後の助産所のあり方について

既存統計資料の分析から、助産婦数の減少、年齢構成の高齢化、出生数に対する保健指導件数の増加・多様化等が認められ、助産所と助産婦の有効活用については、より多面的活用パターンが必要であることが明らかとなった。（研究チームリーダー：宮地文子）



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



総括:母子をとりまく環境の変化の中で母子保健に対するニーズも変わりつつあるが、少子化時代に対応した助産婦のあり方について体系的かつ包括的に検討するため、病院内助産婦の地域での貢献策およびすでに地域で活躍する助産婦の母子保健活動の実態を明らかにするとともに、ヒューマンリソースとしての助産婦を社会・保健・医療・福祉など総合的立場から検討した。